1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3571100126		
法人名	社会福祉法人 福祥会		
事業所名	グループホーム きららの里		
所在地	山口県長門市深川湯本628-1		
自己評価作成日	平成26年9月24日	評価結果市町受理日	平成27年5月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成26年10月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・住み慣れた自然あふれる環境の中で、個々に合わせて作成されたケアプランをもとにその人らしい生活支援に努めています。 ・併設施設との交流を活かし、様々なレクリエーション活動に参加し活気ある生活を支援します。 ・メニューは、利用者の希望を聞き、併設施設の栄養士に相談しながら、旬の食材を取り入れ利用者と共に調理する。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>夕食は法人からの配食を利用され、朝食と昼食は、利用者の希望を聞いて献立を立てられ、毎日、事業所で利用者と一緒にご飯づくりをしておられます。利用者は買物や野菜の下ごしらえ、調理、味付け、盛り付け、配膳、下膳、後片付けなど、できることを楽しみながら職員と一緒にしておられ、利用者にとっての食べる楽しみと食事づくりの楽しみを支援しておられます。雑巾づくりやボタン付けなどの縫物、花を活ける、草取り、花の水やり、電子ピアノ演奏など活躍できる場面を多くつくり、一人ひとりの役割や楽しみ事となるように取り組んでおられます。利用者と職員が地域から来訪される人や家族にお茶と菓子でもてなす「きらら喫茶」は、楽しみの場でもあり、地域との交流にもつながっています。管理者や代表者は職員が提案や意見を言える機会を多くつくって、日頃から話しやすい雰囲気づくりを心がけておられ、全職員が利用者や家族と安心と信頼に向けた関係づくりと支援に前向きに取り組んでおられます。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
57 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員は、生き活きと働けている	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部			自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている		施設玄関・事務室に掲示し、新人職員のオリエンテーションや、月1回の勉強会やケース会議で職員間の確認、理解・統一を図り、実践につなげている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示している。月1回の勉強会やケース会議で地域へ出向いているか、家庭的な雰囲気となっているかを話し合い、確認し共有して、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している		法人は、自治会に加入し、年1回の納涼祭に地域参加があり、交流がある。買い物や図書館やお祭りに出かけたり、また、小学生の訪問や、中高校生のガールスカウトの訪問で、交流を深めている。	自治会に加入し、職員は毎月1回、自主的に周辺地域のゴミ拾いをしている。利用者は地域の祭り(南条踊り)の見学や商店での買い物、喫茶店、図書館、郵便局に出かけて、地域の人と交流している。事業所で3か月に1回開催する「きらら喫茶」で利用者と職員が来訪する地域の人を茶菓子でもてなしている。法人施設と合同で実施する納涼祭に参加する地域の人と交流している。保育園児や小学生の来訪がある他、ボランティアで来訪する中高生のガールスカウトと一緒に雛寿司をつくったり、編み物をしているなど、交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている		併設施設での介護教室や研修会に地域の参加があり、グループホーム職員も参加・協力している。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。		管理者より、評価について説明し、全職員が自己評価を記入し、取りまとめている。全体の理解としては不十分な点もあるが、評価を運営に活かすようつとめている。	管理者は評価の意義を職員に説明して、自己評価するための書類を全職員に配布して記入してもらい、サブリーダーと一緒にまとめている。職員は評価を通して利用者にとって必要なケアが実践できているかを振り返る機会となっている。外部評価結果を受けて、内部研修で事故対応について取り組むなど、改善に取り組んでいる。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、自治会長や地区民生員や利用者家族に施設取り組みや、現状・日常についての報告をし、意見交換を行っている。会議で得た意見には、十分な回答を行い、サービスの向上・改善に努めている。	2か月に1回開催している。利用者の状況や活動状況、行事計画等を説明した後、前回の疑問点や話題となった事柄に関する情報提供(下肢筋力維持や食事等)を行っている。家族全員に案内し、参加者を増やすために事業所行事と同日に開催するなどの工夫をし、危機管理や災害対策などについて話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への参加をいただき、現状報告に努めている。法人としての連絡も取り、協力関係に努めている。市担当者より、意見を必ずいただくようにしている。また、会議の議題の適正化についても意見・助言をいただいている。	市担当課とは運営推進会議の他、電話や直接出向いて運営状況や申請時提出物の内容、市のサービスなどについて相談を行い、助言を得るなど協力関係を築くよう取り組んでいる。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成し、勉強会やケース会議で職員間での理解、意識統一に努めている。拘束・施錠をしないケア、見守り、共に行動するケアの実践を行っている。	月1回の勉強会で外部研修受講者の研修報告を通して職員は身体拘束の内容や弊害について理解し、身体拘束をしないケアに努めている。玄関には施錠をしないで外出したい利用者とは一緒に出かけるなどの工夫をしている。スピーチロックについて、気づいた時には管理者が指導をしている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作成し、勉強会やミーティングで職員間の理解・意識統一に努めている。虐待防止の徹底を実践している。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会・ミーティングにおいて、理解に努めているが、現在、利用者の実際の活用がないため理解不十分な点がある。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時は事前に、利用者や家族の思いに沿った丁寧な説明に努め、不安・疑問の解消に努めている。		

自己	外部	外部評価		
		自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
11	(7)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情受付体制のマニュアルを作成し、契約時には詳しく説明を行っている。利用者及び家族の意見・要望は日常的、運営推進会議などでも聞きいれている。介護相談員の月1回の訪問により、話しやすい環境の中利用者の相談にのっていただいている。</p>	<p>苦情の受付体制を明示し、契約時に家族に説明している。運営推進会議時や年2回の家族交流会、面会時、定期受診時、電話等で直接家族の意見や要望を聞いている他、介護相談員の訪問があり、利用者や家族の意見を事業所に報告している。相談内容は申し送り簿に記録して職員間で共有している。個別ケアに関する相談については即対応し、食事に関する意見については運営推進会議で食事を一緒に摂る機会をつくるなど、意見を運営に反映させている。</p>
12	(8)	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>代表者、月1回のスタッフ会議、年2回の個人面接を行い、意見聞き取りの機会を設けている。また、管理者は日頃から意見を言いやすい雰囲気作りをしており、業務改善・質の向上にも努めている。</p>	<p>管理者は月1回の勉強会で直接職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、日頃から意見が言いやすい雰囲気づくりを心がけている。代表者は月1回のスタッフ会議、年2回の個人面接で直接聞く機会を設けている。勤務時間帯と業務内容のバランス等から2勤務体制から4勤務体制への変更やハード面のメンテナンスについての意見を運営に反映させている。</p>
13		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>年2回の職員の自己評価シートの作成、代表者との個人面接を行い、その時出た意見を反映させ質の向上につなげ、また、環境整備に努めている。</p>	
14	(9)	<p>○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>各職員の勤務年数、力量に応じて、外部研修及び法人内研修に積極的に参加している。個人の資格取得など推奨している。月1回の勉強会を全職員参加で実施し、職員の質向上に努めている。</p>	<p>外部研修は情報を職員に伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として受講機会を提供し、受講後は報告書の提出を義務づけている。月1回の勉強会で研修報告をし、資料はいつでも閲覧できるようにしている。法人では研修委員会を設けて全職員を対象に年間計画を立て研修を実施し、関連あるテーマの時には参加している。内部研修は毎月1回、感染症や生活リハビリ、下肢筋力維持、認知症等について実施している。新人職員は法人での研修修了後、日々の業務を通して先輩職員から学んでいる。</p> <p>・内部研修の充実</p>

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ネットワーク会議やグループホーム連絡会の参加を業務に支障のない範囲で推進している。また、年1回の研修旅行では、他施設を見学し取り組みの意見・情報を収集し業務に役立てるよう努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前からのアセスメント・居宅でのケアマネージャーやサービス提供者からの情報を積極的に取り入れ、入居直後の本人、家族からの声をきめ細やかに聞き、職員間で情報共有し、安心確保に努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み時、些細なことでも話して頂ける雰囲気作りに努め、居宅でのケアマネージャーからの情報も取り入れて、信頼の出来る関係作りに努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の声に十分耳を傾け、必要としている支援に努めている。他のサービス利用の希望がある場合は、担当のケアマネージャーとも連携し、必要性に沿った対応に努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者個々の希望や思いを重視し、得意なことを引き出せる場の環境作りに努めている。利用者同士の共同生活の関係作りも大切にしている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の状態を把握し、相談の上、家族の出来る限りの利用者への支援をお願いしたり、細かな相談を重ね、要所では解決方法を家族に決定してもらうなど関係作りに努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人との電話や面会・外出などを積極的に進めている。家族の状況に合わせ相談の上、協力のもと、外出や一時帰宅・家族行事の参加などを勧めている。馴染みの地域へのドライブなどの支援も行っている。	家族や親戚の人、近所の人、職場の同僚等の来訪がある他、電話や手紙、年賀状での交流を支援している。住んでいた家や働いていた職場に出かけている他、家族の協力を得て外出や外泊、墓参、寺参り、仏様を拝みに帰る、法事に参加するなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間関係の把握に努め、全職員で情報を共有し、場面ごとの関係作りやトラブル回避の為に職員が工夫(フロアの席・気のあった者同士の入浴)出来るよう努めている。それぞれに関わり支え合う事が出来ている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	個人の必要に応じて、要望があれば、相談・支援に努めているが、他施設の利用開始などで終了する事が多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中での言葉や表情からその意向を汲み取り、ケース会議等で情報を共有し支援に努めている。また、意思疎通が困難な方には家族やその他関係者からの情報にて意向の把握に努めている。	入居時にはアセスメントシートやフェイスシートを活用して本人のできることやできないこと、暮らし方の希望等を本人や家族から情報を収集して、思いや意向の把握に努めている。他、入居後は事業所独自の24時間シートや介護記録に日々の生活状況を記録して把握に努めている。困難な場合は家族からの情報をもとに職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、入居後も本人・家族からの情報把握に努め、介護記録(24時間シート)で整理、把握に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居時の情報把握から始まり、入居中は、職員間でケース記録、ミーティングで情報共有に努めている。家族からも情報を得て、把握に努めている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人からの意見を的確に把握することは難しいが、出来る限り本人・家族からの意向を聞き入れて、ケース会議を行い原則として6ヶ月に1回、状況によって随時、介護計画を作成・評価を行っている。	計画作成担当者を中心に月1回ケアカンファレンスを行い、本人の思いや家族の要望、かかりつけ医、栄養士等の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。6か月毎にモニタリングを実施し、計画を見直している他、状態や要望に変化があればその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に24時間シート式の記録、特記の記載を行い、職員の対応も明確に記録して、情報共有している。月1回のケース会議で気づきや工夫の共有をし、必要時には介護計画の見直しを行っている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービスの多様化には至っていないが、出来る限りのニーズの把握、施設内での臨機応変な対応に努めている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日常生活の中で、本人の力を把握し、発揮できる場面作りに努めている。地域の図書館に行ったり、古くからの伝統のお祭りに参加したり豊かな暮らし作りに努めている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の定期的な往診(月2回)を受けながら、本人・家族の希望する医療機関へ家族対応で支援している。緊急時には、職員が代行する事も契約時に説明・同意を得ている。	本人、家族の希望するかかりつけ医としている。協力医療機関から月に2回の訪問診療があり、専門医や他のかかりつけ医、他科受診等は家族の協力を得て支援している。緊急時や夜間は家族に連絡を取り、事業所で支援している。受診結果は面会時や電話で家族と共有し、日々の観察の必要な場合は併設施設の看護師に相談して、適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護師と、必要時・随時に連絡相談を行い、受診などの対応が適切に行われるように努めて支援している。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院との適時の情報交換やカンファレンスへの参加、家族との情報交換・相談を行い、安心できる対応に努めている。退院直後の対応についても電話などで情報交換している。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に至らない段階から、状況の変化に応じて、家族と繰り返し、説明と話し合いを行い、本人・家族の要望も把握した上で、施設方針を理解していただき、支援に取り組んでいる。	契約時に事業所でできる対応について家族に説明をしている。実際に重度化した場合は早い段階から家族やかかりつけ医、職員等で話し合い、法人関連施設への移設も含めて、方針を共有して支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故マニュアル・救急対応について勉強会で取り上げ、全職員が対応できるよう努めている。また、消防署の指導のもとAEDの使用法や応急手当についても訓練を実施しているが、体験型の研修の実施が課題である。	発生した場合はその場にいた職員がヒヤリハット発見報告書に発生状況、処置内容を記録し、出勤している職員で再発防止策を話し合い、全職員に周知するとともに、法人の事故防止委員会に報告している。月1回の勉強会やケース会議で再度話し合い、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。消防署の実施する救急救命法やAEDの取り扱いの研修、看護師による応急手当、感染症についての勉強会を実施しているが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し法人全体での定期的な訓練を年4回(内2回は消防署参加)実施している。災害時には、近隣ホテルのバスで避難所まで送迎できる協力体制を築いている。	消防署の協力を得て年2回、隣接の法人施設と合同で昼夜の火災(出火場所が事業所となることもある)を想定した避難訓練、通報訓練、避難経路の確認、消火訓練の他、地震や風水害を想定した避難訓練を2回実施し、利用者と一緒に参加している。災害時には避難所まで近隣ホテルのバスによる送迎体制がある他、法人施設より高台にある溜池の水位の上昇、決壊を想定した防波堤の高さや強度についての実施計画を話し合うなど、地域との協力体制を築いている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	マニュアルを作成し、勉強会で人格尊重、プライバシー保護について理解を深め、職員は言葉かけ、対応に工夫し努めている。	マニュアルを基に勉強会で学び、日々の実践を通して誇りやプライバシーを損ねる言葉使いや対応をしていないか確認し合うように努めている。不適切な言葉や対応があればその都度管理者が注意し、勉強会でさらに理解を深めるように取り組んでいる。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	共同生活の中で、出来る限り、個々の自己決定・希望を取り入れるよう働きかけに努めている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・入浴の時間など決まっているものがあり、全てにおいて希望どおりに出来ない現状であるが、本人のペースを大切に、支援に努めている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族の協力やボランティアを活用し美容院の利用やお化粧の支援をしている。行事や外出に合わせて、服装なども本人の意向を重視しながら支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	夕食は併設施設の配食を利用しているが、朝食・昼食は出来る限り利用者の力を活かして食事作りをしている。利用者の希望のメニューを取り入れ、買い物・盛りつけ・片づけも利用者参加で行っている。	夕食は法人施設からの配食を利用している。朝食、昼食は利用者の希望を聞いて献立を立て、事業所で利用者と一緒に食事づくりをしている。利用者は買物、野菜の下ごしらえ、調理、味付け、盛り付け、配膳、お茶を汲む、下膳、茶碗を洗う、後片付けなど、一人ひとりができることを職員と一緒にしている。利用者と職員は同じテーブルを囲んで会話を楽しみながら食事をしている。利用者の苦手な食品は食べやすいように調理の工夫をして提供している。誕生日には本人の好みのメニューにしたり、花見には弁当をつくって戸外で食事をしたり、おやつづくり(ぜんざい、ホットケーキ、水羊羹)や外食など、食事が楽しみものになるように支援している。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の利用者の状況に合わせた調理・形態・量とするよう努めている。摂取量を記入し、職員間で情報を共有し、食事・水分量の確保に努めている。献立については、栄養士からのアドバイスをもらっている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け・見守りの支援をしている。週1回、洗浄剤にて義歯の洗浄・消毒を行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	それぞれの状態に合わせた下着、紙パンツやパッドの使用を工夫し、声掛け・見守り・トイレ誘導に努め、排泄の自立に向けた支援を行っている。	ケース記録を活用して排泄パターンを把握し、一人ひとりに合った言葉かけや誘導、見守りをしてトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の状態に合わせた、水分・食事・運動の働きかけを行い、必要時のみ最小限に抑えるよう努めながら、本人の要望も取り入れ、服薬支援を行っている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	14時～17時の間、本人の状況、希望に合わせて毎日、支援をしている。声掛けを工夫し、一人入浴、気の合う方同士の入浴、とそれぞれのニーズに合わせて楽しく入浴出来るよう支援している。	入浴は14時から17時までの間可能で、希望すれば毎日でも入浴できる。個浴や2人浴、湯加減、入浴剤を入れるなど、一人ひとりの希望に応じて対応し、季節の工夫として柚子湯にするなど、くつろいだ入浴となるように支援している。入浴したくない人には無理強いないで待ったり、入浴日を代えるなどの対応をしている。状態によっては清拭や足浴、部分浴等、個々に応じた入浴支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの心身状況を把握し、希望に添って、本人のペースで休息や安眠出来るよう支援している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医師からの指示、薬の本により内容の把握・確認に努めながら支援を行っている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	併設施設でのレクリエーション(習字・生け花・ミュージックケア・造形クラブ等)の参加や、図書館・喫茶店・スーパーへの外出、食事づくりや掃除、洗濯干しなどの日常活動なども積極的に行い支援している。	テレビ視聴、新聞、広告を読む、紙芝居を読む、紙芝居を見る、折り紙、紙細工で壁面飾りづくり、口腔体操、ラジオ体操、足体操、カレンダーづくり、牛乳パックで小物入れづくり、電子ピアノ演奏、法人併設施設のレクリエーションに参加、移動図書館の利用(写真集を借りる)、縫物(雑巾、ボタン付け)、草取り、花を活ける、花の水やり、新聞紙でゴミ箱づくり、掃除、洗濯物を干す、洗濯物たたみ、食事の準備、下ごしらえ、調理、味付け、後片付け、茶碗洗い、お茶くみ、きらら喫茶でのおもてなし、保育園児や小学生との交流、中高生との雑寿司づくり、買物、外出、季節行事など、個々に応じた楽しみ事や活躍できる場面を多く作り、張り合いのある日々を過ごせるように支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望当日に添うことが難しいが、それぞれの要望に合わせて、外出の支援に努めている。家族の協力での外出や一時帰宅や親戚周りも積極的に行っている。馴染みの場所へのドライブも行っている。	事業所周辺の散歩や買物(食材や花)に出かけ、喫茶店で歌や交流を楽しみ、図書館や郵便局の利用、季節の花見(桜、菖蒲、紫陽花、つつじ、紅葉)、ドライブ(自宅付近、元の職場、青海島、道の駅)に出かけている他、家族の協力を得て買物、外出、外泊、法事への参加、寺参り、墓参りに出かけるなど利用者の希望にそって外出できるように支援をしている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在本人のお金は、家族の要望を受け、施設預かりとなっている。食品買い物時にレジでの支払いを任せたり、本人の力に応じて、お金を使う支援をおこなっている。		

自己	外部	外部評価		
		自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に添って、電話が出来るように支援している。家族からの要望もあり、本人が携帯電話を使う際の支援もしている。	
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた花を飾ったり、壁面飾りや写真を貼りだすなどして雰囲気づくりを行っている。適度な温度や明るさには、利用者の声を細やかに聞き入れ対応している。	リビングは自然の光で落ち着いた雰囲気がある。中央にある台所の前の大きなテーブルでは数人の利用者が野菜の下ごしらえをしあたり、傍では他の利用者が下ごしらえの方法について話しかけ、廊下にあるソファにゆったりと座っている利用者など、それぞれが思い思いの場所で過ごせるように工夫している。壁面には利用者が共同で制作した折り紙作品や季節の作品を飾り、生花とともに季節を感じることができる。居室に続く廊下には手すりを設置し、安全や温度、湿度、換気に配慮し、居心地よく過ごせるような工夫をしている。
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースに限りがあり、思い思いに過ごすことは難しいが、テーブル・椅子の配置、廊下ソファの設置等、また、玄関スペースも活用出来るよう工夫している。	
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・家族と相談し、希望に添って居室内を整えている。使い慣れたタンスや時計、趣味の電子ピアノ・本などを持ち込んで頂いている。	テレビ、衣装ケース、電子ピアノ、椅子、時計、手芸用品、お気に入りの洋服、本など使い慣れた物を持ち込み、カレンダーや写真、季節の花、自作品、誕生日プレゼントを飾って居心地よく過ごせるような工夫している。
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	設備や物品の保管などは、安全な配置に努め、解り易く、見やすい掲示や配置を心がけて工夫している。	

2. 目標達成計画

事業所名 グループホームきららの里

作成日: 平成 27年 5月 1日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	14	内部研修(勉強会)は、毎月行っているが、ケース会議と同時進行のため、時間に制約があり、より深く話し合いの場を設けることが出来ない。特に、「救急対応」・「感染症について」など知識を得ることが出来るように取り組みたい。	内部研修(勉強会)を、ケース会議と別枠で設けて、職員全員が「救急対応」や「虐待・拘束について」・「感染症について」など、十分な知識を持つことが出来る。	「救急対応」「虐待・拘束について」「感染症について」など年間を通して、何度か開催し、より実践的なものにしていくために、デモンストレーションや併設施設の看護師の講話も取り入れていく。	1年間
2	30	地域資源の活用については、まだ、十分とは言えず、法人内の交流が主となっている。自治会の老人クラブの皆さんとの交流を深めていく必要がある。	利用者様のニーズに合わせ、地域の資源を活用し、楽しみのある豊かな暮らしを支援できる。	地域の小学校とのふれあいや、古くからの祭りの参加、市立図書館の活用、また、自治会の老人クラブの皆さんとの交流(きらら喫茶)を深めていく。	1年間
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加すること。